

新しい学習評価について

～改訂の背景とその趣旨～

令和3年9月13日（月）
杉並区立済美教育センター
久保 広太郎

I 新しい学習評価の方向性と背景

II 観点別評価(3観点)の捉え方

I 新しい学習評価の方向性と背景

新しい学習評価の方向性と背景～学習評価の基本的な方向性～

- 生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- これまで慣行として行われてきたことでも、
必要性・妥当性が認められないものは見直すこと



- 学期末や学年末などの事後評価だけでなく、評価の結果が日常的に生徒の学習改善につながるように工夫すること
- 学校及び教職員でPDCAサイクルにより、評価の結果を指導に活かしていくこと

ガイダンス的機能

カウンセリング的機能

「評価の結果を次の指導に活かす」 PDCAサイクル

Plan

授業の準備段階に、身に付けさせたい力を明確にして、指導計画や評価計画を作成する。

Do

指導計画を踏まえた授業を実施する。

Check

身に付けさせたい力が身に付いているのかを評価する。

Action

評価の結果を基に、授業や指導計画等を改善する。

評価の結果を、次の指導に活かす。



新しい学習評価の方向性と背景～主体的・対話的で深い学び～

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む
「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共
(仮称)」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を
構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習
得など、新しい時代に求め
られる資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の
高い理解を図るための学習
過程の質的改善

深い学び
対話的な学び
主体的な学び



※高校教育については、些末な事實的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

新しい学習評価の方向性と背景～主体的・対話的で深い学び～

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む
「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共
(仮称)」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を
構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習
得など、新しい時代に求め
られる資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の
高い理解を図るための学習
過程の質的改善

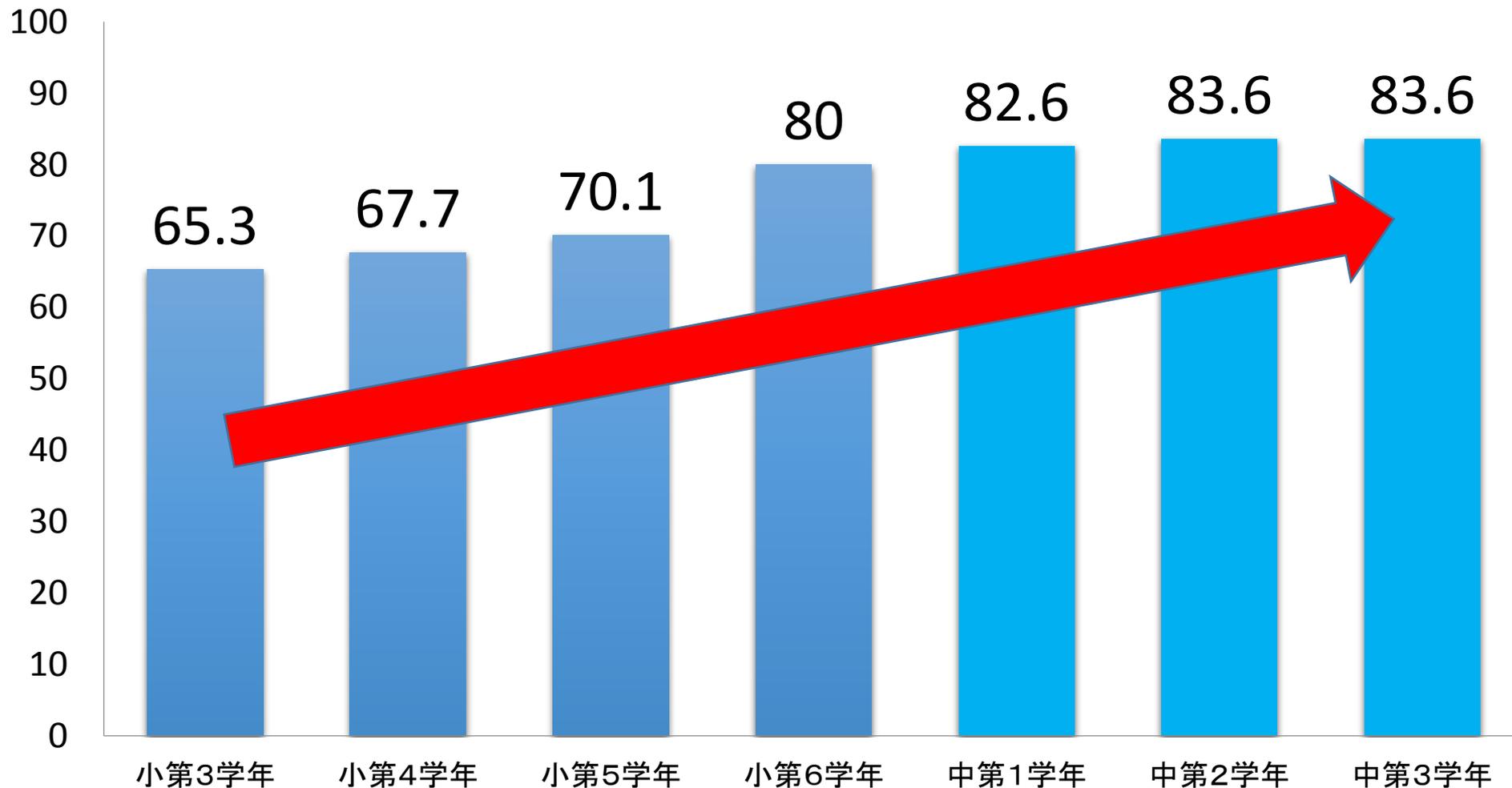
深い学び
対話的な学び
主体的な学び



※高校教育については、些末な事實的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

授業中、ペアやグループで活動したり話し合ったりする時間が多くある。

—平成31年度 杉並区「特定の課題に対する調査、意識・実態調査」結果



新しい学習評価の方向性と背景～主体的・対話的で深い学び～

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

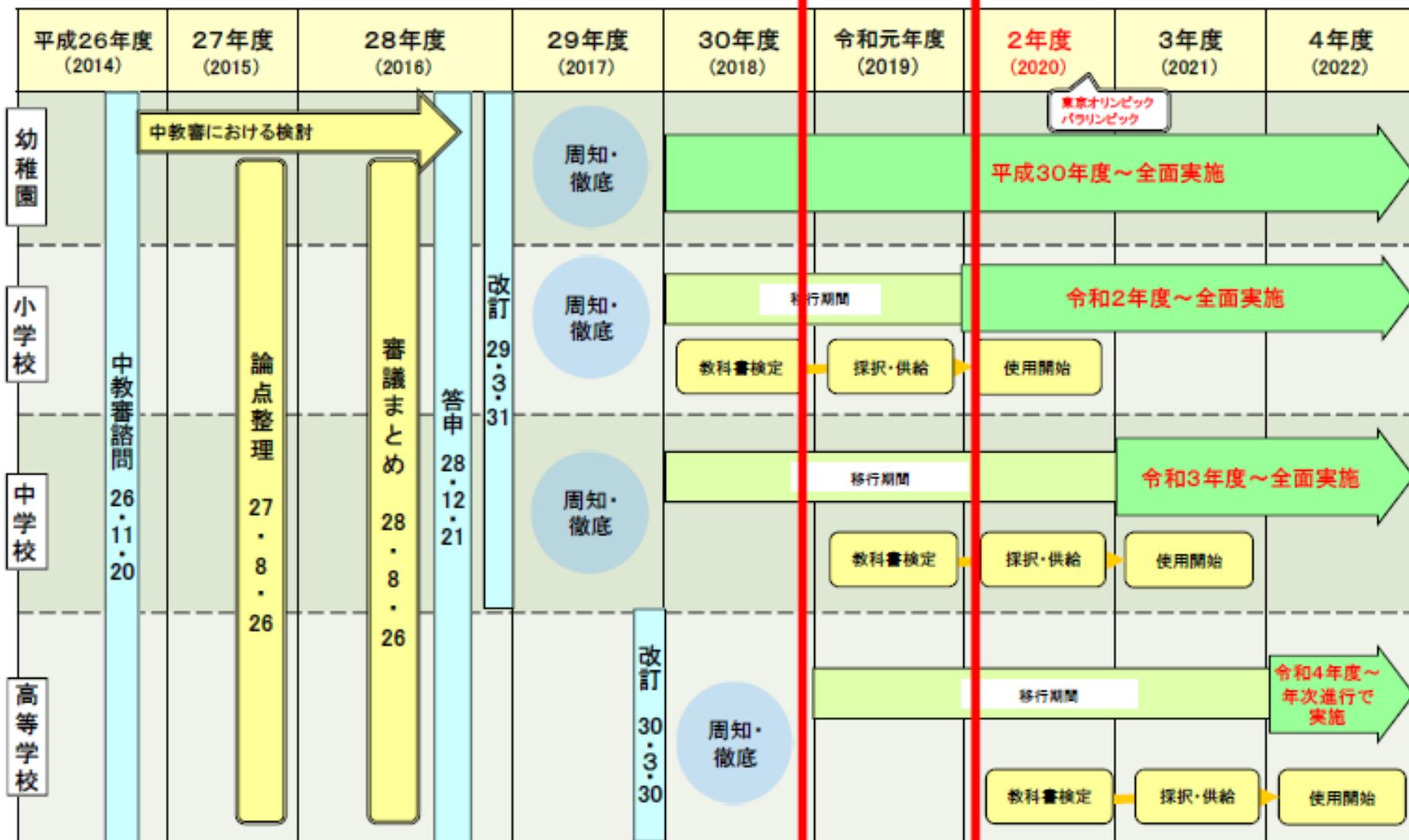
何を理解しているか
何ができるか

生きて働く
知識・技能の習得

理解していること・でき
ることをどう使うか

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

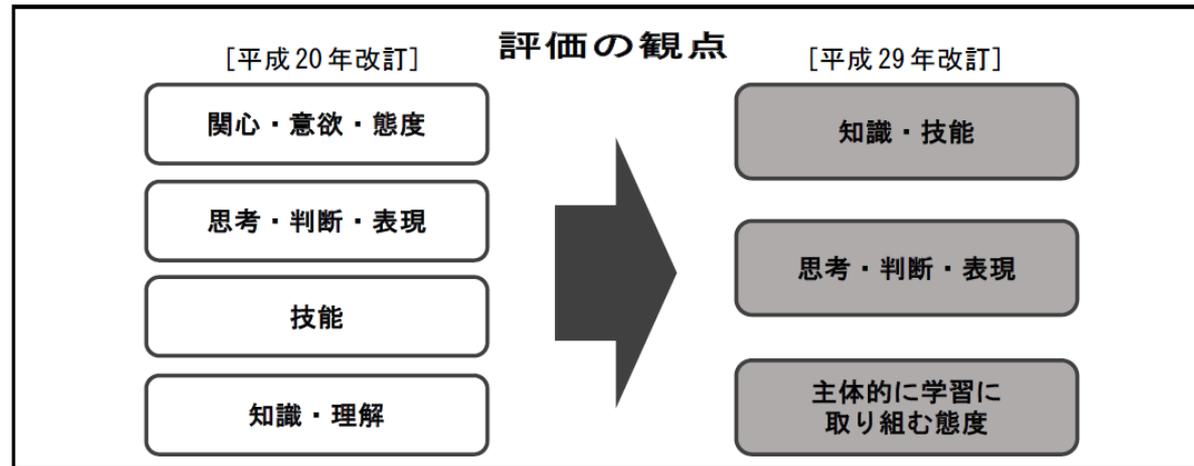
今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール



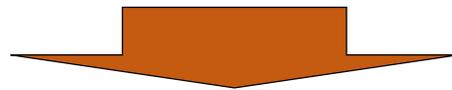
Ⅱ 観点別評価(3観点)の捉え方

観点別評価(3観点)の捉え方

評価の観点の整理



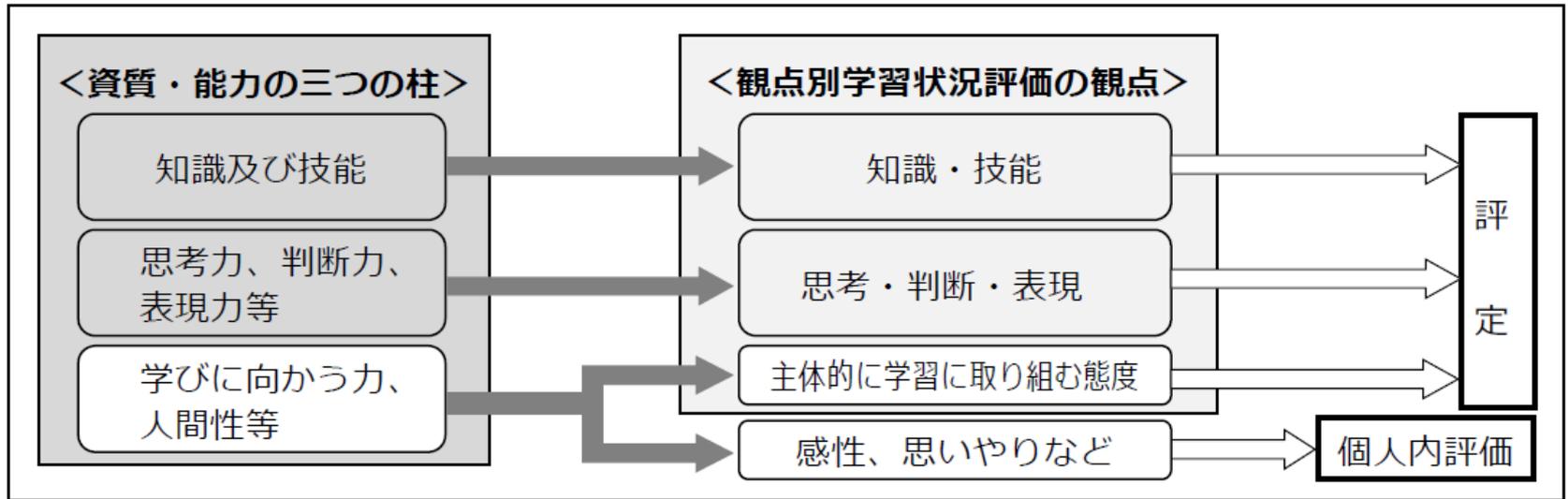
全ての教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力の三つの柱で再整理



観点別学習状況の評価については、「**知識・技能**」、「**思考・判断・表現**」、「**主体的に学習に取り組む態度**」の3観点に整理

観点別評価(3観点)の捉え方

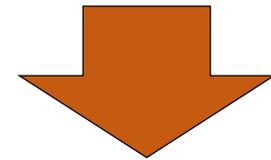
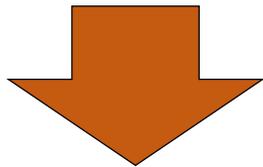
新学習指導要領の趣旨を踏まえた評価の観点



資質・能力の三つの柱の一つである「学びに向かう力、人間性等」について

「主体的に学習に取り組む態度」

「感性、思いやりなど」



観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる。

観点別学習状況の評価や評価にはなじまない。

4観点(国語のみ5観点)から3観点へと変化

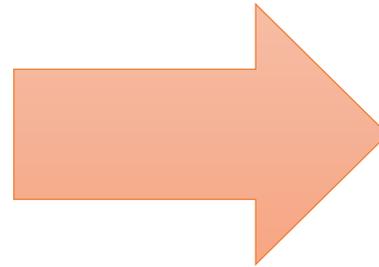
平成20年度改訂

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解



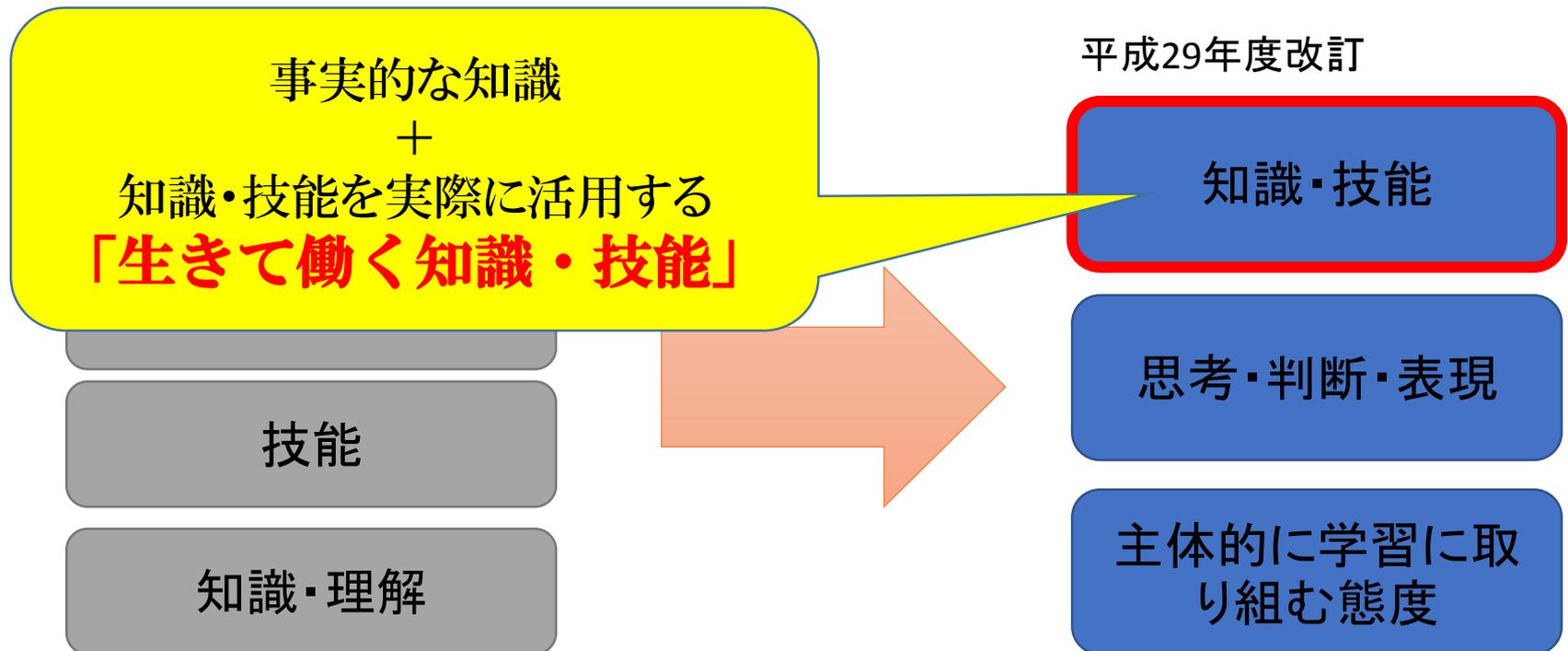
平成29年度改訂

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り
組む態度

4観点(国語のみ5観点)から3観点へと変化



4観点(国語のみ5観点)から3観点へと変化

平成20年度改訂

関心・意欲・態度

知識・技能を活用して課題解決する
「未知の状況にも対応できる」

知識・理解

平成29年度改訂

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り
組む態度

「知識・技能」について

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価をするとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価する。

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題をバランスよく出題して評価する。
- 各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けて評価する。

「思考・判断・表現」について

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

- ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫する。

4観点(国語のみ5観点)から3観点へと変化

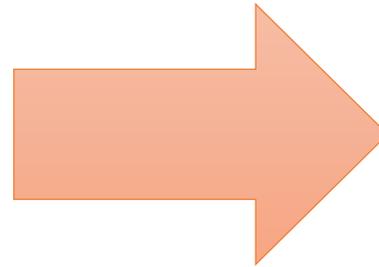
平成20年度改訂

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解



平成29年度改訂

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り
組む態度

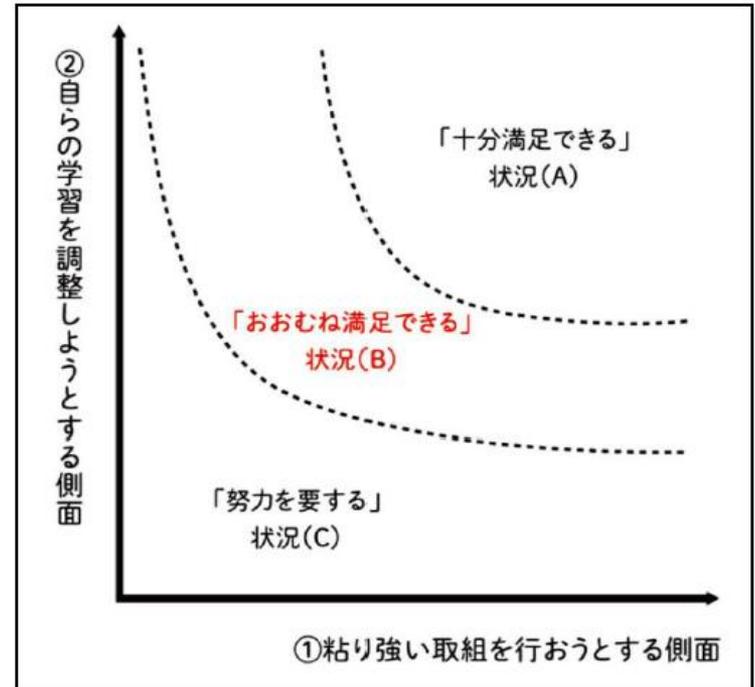
観点別評価(3観点)の捉え方

「主体的に学習に取り組む態度」について

次の①と②の側面を評価することが求められる。

① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた**粘り強い取組を行おうとしている側面**

② ①の粘り強い取組を行う中で、**自らの学習を調整しようとする側面**



「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ

観点別評価(3観点)の捉え方

「自らの学習を調整しようとする側面」とは

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面

- 生徒が自らの理解の状況を振り返ることができる場面
- 自らの考えを記述したり話し合ったりする場面
- 他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面

学習の調整が知識及び技能の習得などに結び付いていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められる。

観点別評価(3観点)の捉え方

「自らの学習を調整しようとする」姿の例

ノートの記述から

学習の進め方について試行錯誤し、自らの学習を調整しながら学ぼうとしている姿を見取る。

を各観的に把握し認識すること（いわゆるメタ認知）として

(iii) ノートを回収し、一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしているかについて評価する。具体的には、「はじめは、まったく変域などを考えずに解いてしまって、全く違う表やグラフをかいていた。だけど、途中で班の人と共有して「三角形ができないこともある」や「変域を考えた方がよい」ということなどに気づき、最後には正しい表やグラフをかくことができた。これからも班やクラスの人と協力することで問題に対する視点を広げていきたい。」などの記述を捉えて評価する。記述することが苦手な生徒には個別に声をかけ、どのような過程で活動を進めていったのかなど、その状況を見取ることなどが考えられる。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 数学】

(令和2年3月 国立教育政策研究所)より

観点別評価(3観点)の捉え方

「主体的に学習に取り組む態度」について

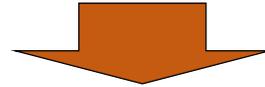
知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。

従前の「関心・意欲・態度」の観点において重視してきた各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考えに基づき、「主体的に学習に取り組む態度」として改めて強調している。

観点別評価(3観点)の捉え方

観点別学習状況の評価

各教科の単元や題材などのまとめごとの学習状況を、A、B、Cの3段階別に総括したもの



A・・・「十分満足できる」状況と判断されるもの

B・・・「おおむね満足できる」状況と判断されるもの

C・・・「努力を要する」状況と判断されるもの

必要な指導や支援を行わないまま、一方的に評価をするようなことがないようにしなければならない。

観点別評価(3観点)の捉え方

観点別学習状況の評価の総括の例

観点	第1学期		
	[単元1]	[単元2]	[単元3]
知識・技能	A	B	A
思考・判断・表現	B	B	B
主体的に学習に取り組む態度	A	B	A

第1学期末における総括

A

B

A

単元や題材ごとの観点別学習状況の総括を行う方法について、教師間で共通理解を図り、児童・生徒及び保護者に十分説明して理解を得ることが大切である。

観点別評価(3観点)の捉え方

評価から評定への総括(中学校)

各教科の観点別学習状況の評価を総括した数値



1から5の五段階で評価する。

- 5・・・「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
- 4・・・「十分満足できる」状況と判断されるもの
- 3・・・「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- 2・・・「努力を要する」状況と判断されるもの
- 1・・・「一層努力を要する」状況と判断されるもの

観点別評価(3観点)の捉え方

評価から評定への総括(中学校)

観点別学習状況の評価		学習の実現状況
A	十分満足できる	Q%以上
B	おおむね満足できる	R%以上 Q%未満
C	努力を要する	R%未満

各評定の範囲		評定
P%以上	5	特に高い程度のもの
Q%以上 P%未満	4	十分満足できる
R%以上 Q%未満	3	おおむね満足できる
S%以上 R%未満	2	努力を要する
S%未満	1	一層努力を要する

※P～Sの具体的数値（ $P > Q > R > S$ ）は、校内で十分に検討して決定する。

観点別評価(3観点)の捉え方

観点別学習状況の評価の総括の例

観点	第1学期		
	[単元1]	[単元2]	[単元3]
知識・技能	A	B	A
思考・判断・表現	B	B	B
主体的に学習に取り組む態度	A	B	A

第1学期末における総括

A
B
A

4

(中学校の場合)

観点ごとの総括を評定へ総括する考え方や方法についても、教師間で共通理解を図り、児童・生徒及び保護者に十分説明して理解を得ることが大切である。

ありがとうございました。

今後とも学校の教育活動にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。